
わたししーらないいと。

羽根羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

わたししーらないっと。

【著者名】

N1756BA

【作者名】

羽根羅

【あらすじ】

でもきっとなんとかなるって信じてる。

「大統領、もう決着は見えたかと
「…そうだな」

『おい日本、そろそろ白旗をあげる』

「武士道とはッ！ 死ぬことと見つけたりイー お国のために！
神風隊、ケヒツー！」

「馬鹿め… 国民まで犠牲にするとは」
「こままでは日本が文字通りの焦土のみです。なんとかしないと
しかし肝心の日本があれではな」

「国民に罪はありません！」

「我々の預かる国民にも罪はない。戦争で疲弊しているのが日本だ
けだと思うな」

「…」

「残念だが助けてやれる余力が無い」

『最後通告だ。日本、降参しろー』

1 (後書き)

一番煎じとか、この部分はおかしいとか。

「総書記、あこづら決着がついたみたいですよ」

「マジか。日本の負けか」

「はい。軍は全滅。無力な国民しか残つておりません」

「マジかあ。息子がデズニーランド行きたがつてんだけどなあ」

「総書記、お電話です」

『もしもし? あのやー、聞いた?』

『あ、中国さんチース』

『あいつらが日本の領土とつちやうども、ウチらが困るわけ』

『そうですね。マジ困っちゃいますよ』

『日本は言わもすがな……いわがなずも? なんだけども、お互い疲れてると思うわけ』

『そりゃあ、やっぱヤバいんじやないっすか?..』

『うん、だから、核ミサイル準備してた?』

『え?』

『核爆弾発射できるかつて聞いたんだよハゲ』

『え?』

『えじやねえよこのタコ。核弾頭二つそり用意しつけつて言つたら海荒らされてえのか? わざわざ荒らすよつな海なこけど口すぞ』

『サーセンでした! 急いで準備します』

『頼むからあ、ね』

『ハイ』

「どうでした?」「

「準備してねえってよ」

「おいおい…。大丈夫ですかね、間に合いますか?」

「時間的な問題はないけども、やっぱ早い方が良いじゃん?」

「ですよねー」

「仕事効率悪すぎ。あいつ何考えてんだる。ウチ、つまめやるのよ」
に説明してたんだけど」

「世襲したからですかねー」

「いつの話だよ」

『もしもし中国さん』

『あ? なんだ豚』

『どこに撃つんですか?』

『日本の領土取られたくないねーって話したばっかだらうがよお』のタ
『ーー、『口をされてーのかー』

「おこられた」

「でも目標地點だいたいわかりましたね。何発撃ちます?」

「手持ちの半分くらい?」

「日本にですか?」

「日本じゃねーって。話きてたのか」「いい

「え? 日本じゃないんですか?」

「え? そういうわれると不安になるんだけど…」

「確認してくださいよ」

「またおこられんのー? 嫌だよ」

「じゃあどこを狙わせれば良いんですかあ~」

「あー、もー! 仕方ないなあ!」

『もしもし? 日本でいいんすか?』

『んなわけねーだろ豚野郎!』

「大統領、あの国またなんか実験つて言つて危ない」としゃますよ
「何をしてるか推測できるか?」

「恐らくあれは核弾頭との見方が強いですね。今正確な情報を調べているところです」

「迎撃の準備だけしておけ」
「わかりました」

『おい。なにやつてんのか詳しく述べ説明しや』

『別になんでもないし』

『いいから説明しや』

『なんでもないって』

『説明しや』

『ほんとなんでもないんだつて…』

『とにかく説明しや』

『なんでそんなにしつこく聞くの!?. なんでもないって言つてゐ
じやん!』

『国民が不安がつてゐる』

『情報規制もできねーのか遅れてんna!..』

「どうじよひばれてる」

「マジですか」

「マジ」

「どうまでばれてるんですか?」

「まだ疑われてるレベルだと想つ

「じゃあまだ大丈夫ですね」

「そうかな?」

「そうですよ」

『「Jの前はキレイめん、あんまり疑つからいけないんだからね?』

『で?』

『絶対に迷惑はかけないから気にしないで』

『直ちに中止しろ』

『えつ、ちよ』

『繰り返す、直ちに中止しろ』

『おつ、お前らからそんな命令される権限ないし!』

『各国迎撃体制が整っている…命令される権限?』

『衛星実験だから邪魔だけはすんなよ!』

『核ミサイルであることはわかっている』

『ちち違つし! なんでだし!』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1756ba/>

わたししーらないと。

2012年1月8日02時47分発行